

柏木教会月報

4月号

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

キリストは生きておられる

ルカによる福音書二四章一三～三五節

牧師 大浦 勝

そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻つてみると、十一人とその仲間が集まつて、本当に主は復活して、シモンに現れたと言つていた。

(二三～三四節)

十字架につけられ、死んで葬られたキリストは、死に打ち勝つて復活され、ご自分が生きておられるこことを弟子たちに示された。この世界は、キリストを死刑にするため引き渡した「わたしたちの祭司長や議員たち」(二〇節)、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫ぶ群衆(ルカ二三・二一)、死刑の判決を下した総督ピラト(同二三・二四)、十字架上で苦しむキリストを侮辱する兵士たち(同二三・三六)が、最後には勝利を収める世界ではない。すべてを呑み込み、滅ぼし尽くしてしまう死が、最後の力でもない。人間の罪のすべてをその身に負い、十字架にかかると罪の贖いを成し遂げてくださったキリストが最後の勝利者である。わたしたちは人間の悪と罪が猛威を振るつておられるが、遂には神の愛とあわれみと義が勝利するという希望の中を歩む。神はわたしたちの罪にもかかわらず、罪と死と魔が最後の言葉を語ることを許されない。

キリストは死に打ち勝つて、生きておられる。「死者

の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死はもはやキリストを支配しません」(ローマ六・九)。わたしたちは死の恐怖の中を生きているが、もはや死が最後の勝利者ではなく、死を滅ぼして、死者の中から復活されたイエス・キリストこそが主である。わたしたちと一つとなり、わたしたちに代わつて死んで下さった方が復活されたのであるから、わたしたちもこの復活の輝きと喜びの中を生きる。「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死ぬないものを必ず着ることになります」(一コリント一五・五三)。それゆえ、わたしたちはもはや何ものも恐れない。生においても、死においても、わたしたちはキリストのものである。

復活のキリストはこの世の旅路を歩むわたしたちに近づき、わたしたちにご自分を現してください。わたしたちの目は一緒に歩んでくださるキリストを認めることができない(一六節)。キリストはわたしたちを聖書のみ言葉へと導いて、聖書をとおしてご自分のことを説明してくださる(二七節)。また、聖典をとおしてご自分を現し、わたしたちをご自分との親しい交わりの中に招き入れてくださる(三〇～三一節)。この世の歩みの中で、わたしたちは悲しみ、惑い、恐れる。しかし、復活の生けるキリストを知ることは、わたしたちを輝かしい喜びで包む。「道で話しておられたとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたのではないか」(三二節)。それは何ものもわたしたちから取り去ることができない、心が燃える喜びである。